

北海道経済

<支社・支局電話番号>

札幌編集部 011-281-3212

函館0138-22-3248

旭川0166-23-7100

釧路0154-41-5554

部屋の湿度快適に

けい藻土で建材原料

鈴木産業 豊富町に生産施設

建材商社の鈴木産業(旭川市、鈴木徳雄社長)

は、道北地方で産出する珪(けい)藻土を建材などの原料として供給する事業に乗り出す。珪藻土は多孔質で吸水性に富むため、タイルなどにして内装に使うと、室内の湿度を快適な範囲内に保つことができる。近く宗谷管内豊富町に研究開発と生産のための施設を設け、九月にも製造販売を始める。併せて、水処理材など新たな用途の開発も進める計画。

珪藻土は単細胞藻類である珪藻の遺骸がたい積したもので、道内では主に稚内市から留萌管内初山別村にかけての道北地方で産出する。同社はタイル工事なども手掛ける関係から道内の窯業原料を調査する中で、珪藻土の建材原料としての可能性に着目。道立工業試験場や道立地下資源調査所の協力を得て事業化のための研究を進めてきた。

これまでの研究では、宗谷管内豊富町で産出するものが最も優れており、原鉱の吸放湿性能は杉材の約十五倍。道内レンガ工場をつくるレンガ窯地の粉体を四、珪藻土を六の割合で混合して試作したタイルを内装に加工した部屋では、湿度が最も快適とされる六〇%前後に保たれ、結露やカビ、ダニの発生もなかったという。

また、汚水の浄化や吸油などの効果も確認されたため、豊富町につくる施設ではタイルやレンガのほか、乾燥材、ろ過材、吸音材などの研究開発も進め、それら製品の原料用に原鉱を一次加工して供給する計画。

施設は町所有の建物を借りて改造する。鉄筋造り二階建てで、延べ床面積は約四百五十平方メートル。原鉱の粉砕機、集じん機、コンベヤー、コンプレッサなどの設備を設ける。総事業費は約一億二千万円で、このうち八千万円は北海道工場工業振興条例に基づいて道から助成を受けることが決まっている。